

レッスン24

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、お祈りでクラスを始め、3回前のクラスから暗記し始めたお祈りの復習をします。

A. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Firm in the Love of God

G C
We walk, we walk

D G
We walk the path of God

G C
We're firm, we're firm

D G
Firm in our love of God

G C
We walk the path of God

D G
When troubles come our way

G C
We're firm in our love of God

D G
And on His path we stay

We serve, we serve
We serve the Cause of God
We're firm, we're firm
Firm in our love of God
We serve the Cause of God
Always doing our part
We're firm in our love of God
And serve with a joyful heart

We stand, we stand
We stand, hearts turned towards God
We're firm, we're firm
Firm in our love of God
We stand, hearts turned towards God
Never doubting His aid
We're firm in our love of God
And all our sorrows fade

C. 引用文の暗記

この最後のレッスンは確固不動というテーマに焦点を当てています。ここで、子どもたちが暗記しようとする引用文について、次のように説明すると良いでしょう。

神を心から愛する人の一番大切な資質の一つは確固不動です。人生でどんなことがあろうとも、私たちはいつも神さまのこと、そして神様を愛することを思い起こします。ですから、誰かが私たちに対して言うことや、されることで私たちの信仰が揺らぐことはありません。私たちは神を愛し、神様の法と教えに従います。確固不動であることの大切さを忘れないようにするため、次のバハオラの引用文を暗記しましょう。

なんじ 汝の主の大業にかっこふどう 確固不動であり続けるならば、すうこう 汝の地位は最高に崇高なものとなろう。¹²⁷

< 確固不動 >

1. 友だちは、星は空にちりばめられた白く光る点だとローズマリーちゃんに言い続けています。でも、ローズマリーちゃんは、どの星も本当は遠くの天体だと学校で習いました。ローズマリーちゃんはこの考えを変えません。彼女は真実だと思うことに確固不動です。
2. 誰かが、毎日お祈りをするのは大事なことではないと、モナちゃんに言いました。でも、彼女は、お祈りすることは神様の教えだと知っていたのでお祈りをします。モナちゃんはお祈りするという教えに確固不動です。

<地位> (☆: 英語にはない)

1. 学校で一番地位が高いのは校長先生です。
2. 私たちの地位の高さは、どれだけ美德を実行しているかによって決まると、先生は言いました。
3. 鉱物、植物、動物、人間の中で最も高い地位にあるのは人間です。

<最高に>

1. その庭園はこれまでにザビエちゃんがみたことのある庭園よりも美しいです。ザビエちゃんはこれ以上の最高に美しい庭園を想像することはできません。
2. ケレスト君のお母さんは家族のために特別なケーキを作りました。みんな大喜びでそれを食べ、最高においしかったと言いました。

<崇高>

1. マーサちゃんは、毎晩寝る前にお祈りをします。眠りに着くとき、崇高な精神になっています。
2. クマール君は世界平和と人間のすばらしさについて話しました。クマール君は崇高な考えについて話しました。

D. お話

みなさんはもう、バヒヤ・カヌーンがアブドル・バハの妹だと知っていると思います。バヒヤ・カヌーンは愛するお父さま、バハオラが不当な政府に逮捕され、牢に送られたとき、たった6才でした。彼女の家族はとても裕福でしたが、お父様の逮捕で全財産を没収されました。土地も、家も、家具やその他すべてが取り上げられたのです。家族はほとんど無一文で、食べるものもない状態で追い出されたのです。バヒヤ・カヌーンや彼女の愛するお兄さま、アブドル・バハはお腹が空いていても、パンはなく、彼らのお母さんは食事の代わりに、ほんの一握りの小麦粉を彼らの手のひらに注いでくれるだけでした。

お父さまがやっと牢から解放されると、政府は強制的に彼を故郷から追放しました。バヒヤ・カヌーンと家族は、冬の厳しい寒さの中、隣国のバクダッドという町へ旅立ちました。その都市へ行くためには雪に覆われた巨大な山々を通らなければなりませんでした。旅はとても危険で、彼らの持っていた物資は十分ではありませんでした。彼らの衣服は、寒さや雪を凌ぐには全く足りませんでした。彼らは、ほんの数頭のラバの助けを借りて、山の高い峰に沿ってゆっくりと進みました。時々、まったくの荒野で夜、野営しなければなりませんでした。でも、神様は彼らを守ってくださいました。そして、神の尽きることのない助けで、彼らは三ヶ月後に、無事、バクダッドに到着しました。バヒヤ・カヌーンはその後、二度と生まれ故郷に帰ることはありませんでした。

バヒヤ・カヌーンは、残りの人生を、お父さまの苦難と流刑を共に経験されました。やがて、政府はバハオラをアッカの牢獄へと追放したため、彼女とその家族はその最も望ましくない犯罪者たちの間で暮らすことになりました。彼女が心より愛したお父さまがお亡くなりになった時、バヒヤ・カヌーンは愛するお兄さま、アブドル・バハ、お父上の信教の長として任命されたアブドル・バハを真心込めて支えました。そして何年も後に、アブドル・バハもまた次の世へ旅立たれた時、バヒヤ・カヌーンは、アブドル・バハの孫であり、アブドル・バハによってこの信教の守護者に指名された、若きショージ・エフェンディの最大の支持者、最も強固な擁護者となりました。

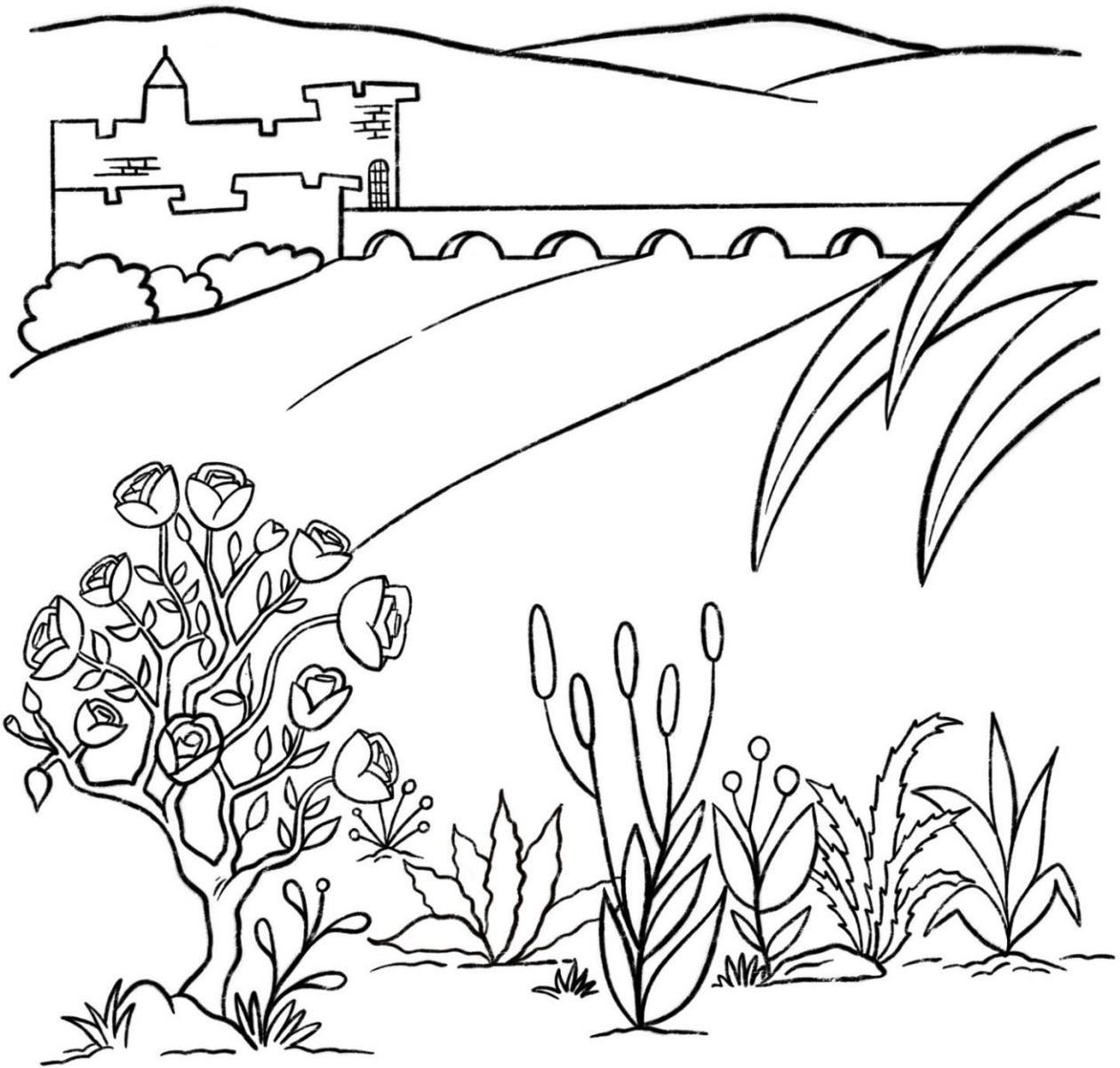
バヒヤ・カヌーンは今やお年です。彼女の人生は苦悩と激動に満ちていました。それは苦勞や災難の連続でした。でも、彼女の精神に変わりはなく、彼女の心はいつも神への愛に満ちていました。彼女は人生の最後の日まで不動で、しっかりしていました。

E. ゲーム: 手助け

子どもたちは二人一組になり、互いに相手と手をつなぎます。最初はペアで周囲を歩き回ります。小さな一歩から始めて、だんだんと大きな一歩にします。各ペアは誰にもぶつからないよう気をつけます。次に、ペアの片方は目を閉じて歩く練習をします。この状態で誰にもぶつからないようにするため、目を開けている一方は友だちを案内する必要があります。言葉は使わないで触るだけで合図しなければなりません。始める前に先生は、子どもたちが、たとえば、手を一度だけ握りしめたら、「止まる」、二度握りしめたら、「後ろに下がる」、三度は、「右に向く」、四度は、「左に向く」といったような合図を工夫するのを助けましょう。

F. ぬり絵 24

G. 終わりの祈り



なんじ しゅ たいぎょう かっこふどう つづ ちい さいこう すうこう
汝の主の大業に確固不動であり続けるならば、汝の地位は最高に崇高なものとなろう。